29p-G7-10

## HEPES による Fe<sub>3</sub>Si/Ge ヘテロ構造の評価

HEPES study of Fe<sub>3</sub>Si/Ge heterostructure

## 東京都市大工<sup>1</sup>、九州大学<sup>2</sup>

松本 宏哉<sup>1</sup>, 山田 晋也<sup>2</sup>, 笠原 健司<sup>2</sup>, 浜屋 宏平<sup>2</sup>, 澤野 憲太郎<sup>1</sup>, 宮尾 正信<sup>2</sup>, <sup>o</sup>野平 博司<sup>1</sup>

Tokyo City Univ.<sup>1</sup>, Kyushu University<sup>3</sup>

Hiroya Matsumoto<sup>1</sup>, Shinya Yamada<sup>2</sup>, Kenji Kasahara<sup>2</sup>, Kohei Hamaya<sup>2</sup>,

Kentarou Sawano<sup>1</sup>, Masanobu Miyao<sup>2</sup>, <sup>°</sup>Hiroshi Nohira<sup>1</sup>

E-mail: <u>hnohira@tcu.ac.jp</u>

はじめに Si-Metal-Oxide-Semiconductor Field Effect Transistor (Si-MOSFET)のデバイスサイズを縮小する ことで、MOSFET の性能向上を図ることは、限界に 達しつつあり、性能向上のために新しい材料や構造 の導入が積極的に試みられている。その一つが、強 磁性体を金属ソース/ドレイン電極に用いたスピン ベースの Ge-チャネル MOSFET である。その材料と して、格子整合が良く Ge 上にヘテロエピタキシャ ル成長が可能な強磁性体である鉄シリサイド (Fe<sub>3</sub>Si、 キュリー温度 570℃)が注目されている。デバイス 応用の実現には、Fe<sub>3</sub>Si/半導体界面のフェルミレベ ルピニング(FLP)[1]の起源の理解とそれに基づく制 御が必要である。そのためには界面の化学的・物理 的理解が重要である。そこで、今回、Ge(111)基板上 への Fe<sub>3</sub>Si ヘテロエピタキシャル成長温度の違いが 界面の化学結合状態へ及ぼす影響を角度分解X線光 電子分光法で評価したので、その結果を報告する。

<u>実験方法</u> 試料は、分子線エピタキシー(MBE)法に より、Ge(111)基板上に基板温度室温および 300°Cで Fe<sub>3</sub>Si を 10nm 成長させたもの(以降それぞれを「室 温成長」、「300°C成長」と呼ぶ)である。これらの試 料を SPring-8のBL46XU( $h\nu$  = 7940eV)で、Fe 2 $p_{3/2}$ 、 Si 1s、Ge 2 $p_{3/2}$ 内殻軌道からの光電子を脱出角 15° ~80°で測定(硬 X 線光電子分光法)することで深 さ方向の化学結合状態および組成分布を評価した。

結果 Fig. 1、2 に、室温成長と 300℃成長の試料からの Fe 2p<sub>3/2</sub>、Si 1s および Ge 2p<sub>3/2</sub> 光電子スペクトルを光電子の脱出角をパラメータに示す。ここで、Fig. 1 では酸化していない Fe<sub>3</sub>Si からの Fe 2p<sub>3/2</sub> と Si 1s の光電子強度、Fig. 2 では酸化していない Ge からの Ge 2p<sub>3/2</sub>の光電子強度で、それぞれ光電子スペクトルを規格化した。なお、波形分離は、各化学結合状態の結合エネルギーとして文献値[2]を参照して行った。Fig. 1 から、成長温度によらず、Fe<sub>3</sub>Si からの信号が観測されていることがわかる。Fig. 2(a)に示すように、室温成長の試料では、酸化した Ge からの信号が観測されず、一方、Fig. 2(c)に示すように、300℃成長の試料では、酸化した Ge からの信号が観測された。室温成長と 300℃成長の試料の構造の違いを

光電子強度比の脱出角依存性を用いて検討したところ、室温成長では急峻な Fe<sub>3</sub>Si/Ge 界面となっているが、300℃成長では、成長中に Ge が Fe<sub>3</sub>Si 中に拡散していることを見出した。これらは、これまでのXRD 測定、RBS 測定、および TEM 測定による「成長温度 60~200℃で Fe<sub>3</sub>Si 相のみが形成されるが、300℃以上では界面での原子混合が顕在化し、Fe<sub>3</sub>Si 相と異相(FeGe と FeSi)の混合層が形成される。」との報告[3]と矛盾しない。角度分解X線光電子分光結果の詳細な解析結果は、当日報告する。

## 対献

- [1] K. Kasahara, et al., Phys. Rev. B 84, 205301 (2011).
- [2] John F. Moulder, et al., Handbook of X-ray
- Photoelectron Spectroscopy : ULVAC-PHI, Inc.









